



水痘ワクチン

問 稲城市保健センター
☎378-3421

水痘（水ぼうそう）の予防のための水痘ワクチンは、日本人の研究者高橋博士らにより1974年に開発されました。わが国では1987年に発売され、当初は水痘に罹ると命にかかわる、治療中の白血病やネフロー

ゼ症候群などの免疫不全状態の患者さんたちの発症予防のために使われていました。1990年代に入り接種対象者が拡大され、1歳以上の水痘未罹患（水ぼうそうに罹ったことがない）の子どもたちにも接種できるようになりました。しかしながら、昨年の9月までは任意接種（接種費用が有料）であったため、我が国の水痘ワクチンの接種率は40%台にとどまり、水痘の流行状況にはあまり変化はなく、毎年約100万人の患者発生があり、その中の8割以上が5歳以下の乳幼児でした。

昨年10月から水痘ワクチンは定期接種（接種費用が無料）となり、1歳から3歳になるまでの間に2回接種することになりました。1回のみの接種では、接種後の水痘罹患が20～30%に認められます。2回目の接種を1回目の接種後、半年から1年の間に行うと、水痘に対する血液中の抗体がより速く高く上がり、1回のみの接種よりもさらに水痘に罹りにくくなります。一般的に予防接種で1つの病気の流行を抑え患者数を減らすためには、その病気のワクチン接種率を90%以上に上げる必要

があると考えられています。定期接種化と2回接種により、数年後には水痘患者の大幅な減少が期待できます。実際、今年に入ってから水痘患者の全国報告数は昨年よりも減ってきています。水痘は、ほとんどの方は軽い症状で済む病気ですが、まれに脳炎のような重い合併症を起こすことがあります。水痘はワクチンで予防できる病気です。周りの方とうつさないためにも一人一人がきちんとワクチンを受けて予防しましょう。

稲城市医師会 森 直行